

(株)綾碾 代表取締役

## 中田義孝さん

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

「高品質のてん茶を作ることが、茶生産農家の所得向上につながる」とてん茶加工への信念を語るのは、綾部市の㈱綾碾の代表取締役の中田義孝さん(71)。

同社は綾部市で生産するてん茶の共同加工工場として、2012年に地域の茶生産者が出資して設立された。現在、株主として16人の生産者が出資、運営している。

中田さんは「良いてん茶は良い生葉から」の思いから適期摘採にこだわる。高品質のてん茶生産には、適期に摘み取られた良い生葉と、生葉の状態に合わせた優れた加工技術による集中的な加工が必要と考える。優れた生葉が取れる期間はおよそ2週間。そのため、てん茶の加工期間も短期集中とな

## てん茶の加工に情熱



▲ 代表取締役の中田さん㊦と、役員の永井久男さん㊧、櫻井喜仁さん

り、1時間当たり200㏩の加工能力をもつ同社の加工ラインは高品質のてん茶生産には不可欠だ。

茶の需要はコロナ禍の影響もあって減少傾向で、抹茶の原料となるてん茶の需要も例外ではない。しかし、中田さんは「加工工

場である綾碾の経営は簡単ではないが、会社としてもうけることが目的ではない」と強調する。大きな目的は、高品質の生葉と優れた加工技術により高品質のてん茶を生産し、有利販売につなげて茶農家の利益拡大を図ることだ。

もちろん、人員配置の効率化や加工技術向上による省力化やコスト削減など、会社としての経営を維持するための努力は惜しまない。

その一つが今年から取り入れたJA全農の「圃場(ほじょう)管理システム」だ。生葉の納入に必要な生産履歴をデータで一括管理するもので、元々は生産者向けに開発されたものだが、綾碾のように共同加工工場ともデータを連携することで、生産者も工場も事務作業の負担軽減につながっているという。

中田さんは両丹茶の生産者でもあり、被覆栽培で、てん茶と玉露を生産している。「両丹茶は一番茶しか出荷しないが、来年の良い生葉の生産のため、害虫を防ぐ薬剤散布や施肥、草刈りなど夏場の茶木の管理を怠ってはいけない」と語る。中田さんの茶生産にかける情熱は誰にも負けない。

■法人所在地 綾部市位田町松前。(電)0773(47)0442。

■法人概要 2012年8月設立。役員5人。施設 2てん茶加工ライン(100㏩×2ライン)。